

## 第2回 四十四田ダム貯水池堆砂対策検討委員会

### 議事概要

## 第2回 四十四田ダム貯水池堆砂対策検討委員会 議事録

開催日時：平成19年6月18日 13時30分から15時00分

開催場所：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

出席者：<委員長>

平山 健一 岩手大学 学長

<委員>

石川 忠晴 東京工業大学大学院 教授

海田 輝之 岩手大学工学部 教授

堺 茂樹 岩手大学工学部 教授

千葉 啓子 岩手県立大学盛岡短期大学部 准教授

鈴木 穰 土木研究所水循環研究グループ水質チーム 上席研究員

箱石 憲昭 土木研究所水工研究グループ河川・ダム水理チーム 上席研究員（欠席）

<行政関係者>

南 哲行 国土交通省東北地方整備局 河川部長

（代理出席 西川 和雄 河川部 河川情報管理官）

山本 聡 国土交通省岩手河川国道事務所 事務所長

葛西 敏彦 国土交通省北上川ダム統合管理事務所 事務所長

菊地 秀一 岩手県環境生活部 部長

（代理出席 荒谷 克己 環境生活部環境保全課 生活衛生・鉱業担当課長）

西畑 雅司 岩手県土整備部 部長

岩野 光進 盛岡市環境部 部長（欠席）

川口 節雄 盛岡市下水道部 部長

池内 達 岩手県企業局業務課 総括課長

議事次第：1．開会

2．出席委員の紹介

3．委員長挨拶

4．議事

(1) 現在までの検討結果報告

1) 委員会および技術検討会の開催経緯

2) 第1回～第3回技術検討会の結果

3) 質疑応答

(2) 今後の予定

(3) その他

5．閉会

## 1 . 開会

- 1) 開会
- 2) 委員の紹介
- 3) 委員長挨拶

## 2 . 議 事

事務局から、委員会および技術検討会の開催経緯、第1回～第3回技術検討会の結果について資料に基づき説明を行った。

これまでの検討結果のまとめとして、量的な課題については、急激な堆砂によりダム機能が損なわれていることからダムとしての対策の必要性、質的な課題については、既堆積物による水環境への影響が小さいことから既堆積物の存置を許容し、監視態勢を整理していくことを報告した。

これに対する、委員からの主な意見は以下のとおりである。

### (1) 堆砂の課題に関わる意見等

#### 質的課題

- ・ 既調査結果からは、現在ダム貯水池に堆積しているヒ素を含む土砂による水環境への影響は小さいと考えられる。
- ・ これまでに自然状態での濁水濁水は生じておらず、調査結果から水環境への影響は小さいとしているが、緊急やむを得ず通常運用水位よりも水位低下が生じる場合には部分的に深く浸食され、高濃度のヒ素を含む層まで達することも考えられるので、現況把握及び経過観測を行う。
- ・ ヒ素による水環境への影響が小さいという判断は、貯水池の水質がほぼ中性ということが前提である。現時点では、富栄養化が進んで上層水のpHが高くなり、それが下層水まで影響することは考え難いが、注意する必要がある。
- ・ ダムの底に貯まっているヒ素は溶出しにくいと言えるが、新たにダムに流入してくるヒ素を考えれば源を断つ必要があり、その方向性を検討すべきである。
- ・ 監視態勢について整理していくことが重要である。

#### 量的課題

- ・ 現状ではカスリン台風規模の出水が起こった場合にはダムの最高水位を超えると想定されるが、これは、堆砂による影響よりも当初計画どおりの放流ができないことによる影響のほうが大きいと思われる。

## ( 2 ) 対策の考え方に対する意見等

- ・ ダム貯水池および下流へのヒ素流出が懸念されるため、現在ダム貯水池湖底に堆積している土砂を対象とした対策は避けるべきである。
- ・ 治水対策を考える上では、雫石川合流までの河道整備も含めて総合的に検討することが望ましいと考えられる。
- ・ 堆砂が急激に進行した要因として、上流での暫定中和処理という四十四田ダムの特殊性があるため、堆砂対策としては、ダム計画の治水・利水容量を回復させるという考え方もある。

## ( 3 ) 今後の予定

- ・ 第 4 回技術検討会を 8 月に予定する。
- ・ 堆砂対策および今後の監視態勢について審議を継続する。